

6 中学校外国語（英語）科

(1) 題材名

第3学年 「ネパールとつながろう」（「補充・深化」）

(2) 題材設定の理由

文部省の新学力調査（平成7年度実施・平成9年度結果発表）によると、単語や文法の知識などを空欄に入れる問題などの正解率が高いが、対話の流れに沿って空欄に適切な英文を補う問題などの正解率は低い。それは言い換えると、中学校3年間で学んだ英語力は、文法や語彙の言語材料や表現形式の知識はかなりあるが、英語を使って自己の考えを表現する力、状況に応じて適切に英語を使う力が弱いと言える。このことから、生徒のコミュニケーション能力を十分に付ける必要があると考える。

コミュニケーション能力の育成を図るには、言語材料や表現形式を操作する「技能」と、何を相手に伝えるのかという「内容」の2点を含む言語活動の展開が必要である。しかし、ややもすると、「技能」と「内容」のバランスがとれていない指導が見受けられる。このことが原因となって、生徒のコミュニケーション能力を十分に育てることができていないと考える。すなわち、表現形式をパターンに沿って繰り返すだけでは自分の考えを効果的に伝える能力としては不十分である。このような「技能」に偏った授業からは、コミュニケーションの手段としての英語という認識は育たない。そこで、使える英語を目指して、二つの言語活動が有機的に結び付いていると思われる電子メール交換を授業の中に取り入れ、手段としての英語を体感させ、コミュニケーションへの意欲を高めることを目標とした。

生徒の英語に対する興味・関心の程度は様々であるが、「英語を使ってみたい」という思いや願いはどの生徒にもある。そこで、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲を高めるため、ネパールの高校生と電子メールを交換する活動を「補充・深化」として授業に取り入れた。この授業では、生徒が英語の表現を総合的に使い、情報を発信したり受信したりする活動を設定した。このような双方向に情報をやりとりする活動を通して、生徒一人一人がコミュニケーションの楽しさを知り、更にコミュニケーションへの態度や実践となって表出すると考える。

また、電子メール交換を通して、同世代のネパールの生徒の考えなどに触れ、異文化への関心をもとうとする態度も育成したいと考え、本題材を設定した。

(3) 題材の目標

- ・ 意欲的にコミュニケーションをしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ 既習事項を使い、自己表現ができる。(表現の能力)
- ・ 電子メールで得た内容を理解することができる。(理解の能力)
- ・ 同世代のネパールの生徒の日常的な生活や考えを知る。
(言語・文化への知識理解)

(4) 題材の指導計画 (全9時間)

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 規 準
第 一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ネパールの高校生と電子メールで交流することとおよその日程を知る。 インターネットの有効性や問題点を考える インターネットでネパールに接続して、各グループで文化・気候などを検索する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材全体は主体的な学習であることを押さえる。 インターネットを使う上での便利な面と注意点を生徒から引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子メール交換に興味をもち、取り組もうとする。(関) インターネットを使う有効性や注意点など理解する。(言)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 送信文として将来の夢などを入れて自己紹介文を英語で書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が表現したいことを適切な英語にできないとき援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことを英語で表現できる。(表)
	3	<ul style="list-style-type: none"> 送信文を完成させた生徒から、コンピュータに入力する。全員がそろったら送信する(送信1回目) 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手を意識した送信文になっているか再度見直すように指導する。 送信文ができていない生徒に英語の表現を含めて助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 送信文が英語で表現できる。(表)
第 二 次	4	<ul style="list-style-type: none"> ネパールの学生に質問したいことを出し合い、6つの項目でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 1 文化 2 服装 3 季節・気候 4 学校生活 5 食べ物 6 その他 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 自由に意見を出させる。 質問としてふさわしいかどうかを生徒が考え、判断する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ネパールのことに興味をもち、意欲的に質問内容を考えようとする。(関) 受け取る相手のことを意識した質問内容をつくることができる。(言)
	5 本時 (2/4)	<ul style="list-style-type: none"> 関心がある質問項目ごとに分かれてグループをつくる。各項目に関連する質問文をつくった後、グループで深め、整理する。完成したグループから質問文を入力し、送信する。(送信2回目) 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が活動カードを使い、具体的な質問文をつくることできるように支援する。 読み手を意識した質問文になっているか、グループで検討するように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に質問内容を考えようとする。(関) 自分の質問文が英語で表現できる。(表) 相手を意識した質問文となるように整理できる。(言)
	6	<ul style="list-style-type: none"> ネパールからの返信を読み理解する。その後、自分達の生活と比較してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> 返送メールの内容を理解できるように支援する。 ネパールの生徒の考えが読みとれるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 返送された英文を意欲的に読もうとする。(関) 送付された内容を理解する。(理) 英語を通してネパールの学生の考えに触れる。(言)
第 三 次	7	<ul style="list-style-type: none"> グループで自分達の意見や感想を入れながらまとめ、発表にむけて工夫する。 グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通点、相違点などに注目してまとめるように助言する。 他のグループの発表に興味を持って聞くように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫した発表をしようとする。(関) 他のグループの発表に興味を持って聞こうとする。(関) 日本との共通点や相違点を理解する。(言)
	8	<ul style="list-style-type: none"> ネパールから送付された質問にグループで考え、回答の文をつくる。完成したグループから入力し送信する。(送信3回目) 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の考えが適切な英語の表現にならないとき、援助する。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問に意欲的に答えようとする。(関) 自分達の考えを英語で表現できる。(表)
9	<ul style="list-style-type: none"> 学習を終えての感想文を書く。 グループで礼状を書き、送信する。(送信4回目) 	<ul style="list-style-type: none"> 率直な感想を書くように言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習全体をとらえて感想を書くことができる。(言) 礼状を英語で書くことことができる。(表) 	

(関)・・・コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(表)・・・表現の能力、(理)・・・理解の能力、(言)・・・言語や文化についての知識・理解

(5) コンピュータ活用の考え方

ア 中学校外国語（英語）科における活用の考え方

学習指導要領で、外国語（英語）科の目標は以下のように示されている。

外国語を理解し、外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を深め、国際理解の基礎を培う。

上記の目標を踏まえ、英語教育とコンピュータとの関連を考えると、情報通信ネットワークの活用がその一つの方法としてあげられる。なぜなら、今後、国際化や情報化がますます進展していくことが予想され、実践的なコミュニケーション能力を育成することが以前にもまして必要とされているからである。

情報通信ネットワークの特徴は、外国の情報を瞬時に手に入れたり、外国の人々と双方向にコミュニケーションしたりできることである。またそれは、これからの高度情報化社会の中で一般化されていくものと考えられている。この情報通信ネットワークを英語教育に取り入れ、そこから得る情報を生きた英語として教材化していくことは、実践的なコミュニケーション能力を育成するのに役立つと考える。またそこから得られる情報は、異文化理解に役立つ情報であるということも視野に入れる必要がある。

進展する国際化の中でコミュニケーションの手段として英語を使う時代が到来していることは、誰もが認識していることである。しかし、実際、日本においては教室以外で英語を日常的に使う場が限られているという状況がある。そこで、教室から直接に世界とつながることができる情報通信ネットワークは、生徒がコミュニケーションの手段としての英語を体感的に学ぶのに有効な方法であると言える。

また、情報通信ネットワークで得た方法は、国際化の進展で必要となる「異文化間コミュニケーション能力」をも育成することができる。この異文化間コミュニケーションとは、「相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意見を表現し、相互理解を深める」ことを指し、国際理解を図る上で必要な態度だと言える。英語のコミュニケーション能力の育成を考えると、このような視点からもとらえることが大切である。情報通信ネットワークを使い、生徒が様々な国の人々を知り、直接コミュニケーションをする機会をもつことは、人間尊重、異文化理解、相互理解の基礎的な態度を養うことになると考える。

コミュニケーションの手段として、生徒が英語を積極的に使うようにするために、教師は生徒が表現したい内容や、知りたい情報を大切にし、主体的に「使いながら学ぶ」ことに視点を置いた言語活動を工夫する必要がある。情報通信ネットワークを使い、世界の様々な国の生活や文化の情報を授業に取り入れることは、言語活動の幅を広げることにつながる。特に生徒が自らコンピュータを操作し、検索することは、英語と瞬時に接することができる点が優れている。このように、情報通信ネットワークで得た情報は教材としての価値が高いと言える。また、コミュニケーション活動として、「テレビ会議」が考えられる。コンピュータ画面を見ながら、生徒はその場で理解し、自分が考えたことを即座に英語にして相手に返事をするを迫られる。このような双方向の実践的な活動を繰り返し授業に取り入れていけば、「更に高い英語力」を身に付けることができると考える。

イ 本題材でのコンピュータ活用の考え方

コミュニケーション能力を育成するためには以下の諸点が必要な条件とされている。

情報のやりとりがあること
生徒が情報の受け手であり、送り手であること
必然的で自然な場があること

これらは「使いながら学ぶ」実践的な活動の条件を述べたものである。これらの条件を整えると、生徒のコミュニケーション能力を高めることができる。インターネットで、電子メール交換をする本題材での活動は、この三つの条件を満たしていると思われる。なぜなら、生徒自身が情報の受け手であり送り手として英語を使う現実的、実践的活動と言えるからである。

電子メールは普通の郵便と違い、世界のどこにいる相手にも瞬時に手紙が送れ、返信もすぐに手元に届くため、生徒の興味を呼び起こすことができる。この活動では、生徒の興味は情報の中味にあるので、他国の文化などを積極的に知ろうとする態度も体験によって養うことができると考える。

電子メール交換を通して英語の学習をすることは、文法や語彙などの言語材料や表現形式を操作する「技能」と、自分の感情や意見を表現する「内容」のバランスがとれた授業展開を可能にすると考ええる。

従って、「使いながら学ぶ」ことを指導方法の改善の起点と考え、コンピュータを情報の交換のための道具として使おうというのが本題材での試みである。

(6) 本時の目標

- ・ グループで質問内容を検討し整理しようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ 自分の考えを英語で表現できる。
(表現の能力)

(7) 本時の展開(次ページ参照)

(8) 本時の評価

- ・ 積極的に自分の意見や考えを表現し、協力し質問をまとめようとしたか。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・ 自分の考えを整理し、既習事項を使って英語で表現できたか。
(表現の能力)

(7) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動		個に応じた指導の手だて		評価の観点
		学習形態	主な学習活動	指導上の留意点	機器、教材、教具等	
導入	<ul style="list-style-type: none"> Greeting around you Warm-up <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Today's Topicに従って、自分の意見を言う。</div>	ペア	<ul style="list-style-type: none"> 何人かとあいさつを交わす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Hi! How are you? Fine, but sleepy. And you?</div> <ul style="list-style-type: none"> Today's Topicについてペアで会話を交わす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Have you prepared questions to ask the students in Nepal? YesやNoの後に必ず理由を言って会話を続ける。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを表す適切な表現を使うように言う。 会話を始めるときは以下のように言ってからする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">May I ask you today's topic, first?</div> <ul style="list-style-type: none"> 会話が続けることができるように支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> あいさつに続いて自分の意見が表現できているか。(表)
展開	<ul style="list-style-type: none"> 質問項目に沿ってネパールの学生への質問を考える。 グループで質問をまとめる。 質問文をコンピュータに入力し、送信する。 	個人 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 質問項目ごとにグループをつくり質問内容を考える。まず、各自が質問を英語でつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1 文化 2 服装 3 季節・気候 4 学校生活 5 食べ物 6 その他</div> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの質問を考える。 グループで以下の手順で質問内容を検討し、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> 個人の質問を出し合う。 同じ内容を集める。 質問の英文を直す。 質問の内容を整理する。 見直し、完成させる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに完成させた質問をコンピュータに入力し、送信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初から英語で、できるだけ質問文を考えるように助言する。 適切な英語を使い表現するのを支援する。 間違いを恐れずに、聞きたいことを次々に英語にするように助言する。 最低限の文法の間違ひは指導する。 グループで意見を出し合い、文を練り上げるように助言する。 ネパールの学生の立場に立って、質問内容を見直すように助言する。 	活動シート (個人用) 活動シート (話し合い用) コンピュータ 6台	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に質問をつくらうとしているか。(関) 質問したいことが表現できているか。(表) グループの中で積極的に意見を出しているか。(関) 適切な英語の表現が使えているか。(表)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価 相互評価 	個別 グループ	<ul style="list-style-type: none"> 活動を振り返り評価し、カードに記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>評価例</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価 自己表現に関して適切な英語の表現が使えたか。 使えなかったのはなぜか。 相互評価 質問内容を話し合いで深められたか。 </div>		評価カード	

(関)・・・コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(表)・・・表現の能力

(9) 指導上の工夫

ア 教師の支援について

生徒が自己表現を通して満足感が味わえるようにするために、以下のような支援をしました。

生徒の発想を大切にし、ネパールの生徒への質問内容は自分達で決定する。

交流後も個人的なつながりがもてるようにする。

自分の考えをしっかりと持ち、英語にした後でグループで深め合う。

発表する時間を設定し、共通理解を図る。

生徒が自分の言いたいことを英語に直して表現しようとするとき、既習事項のどの単語、文法、表現形式を使ったらよいかを選択したり、決めたりする過程での教師の支援が必要となります。その中で教師は生徒の表現したいことを理解し、一人一人に合わせて助言し、生徒に自己表現できた喜びを味わわせることがポイントとなります。特に、自分が質問したいことは何かを十分に考えさせ、それを適切な英語で表現できるように支援することが、自己表現の幅を広げていきます。

ネパールに送信する質問内容を考える本題材では、各自が考えた英文を更にグループで深め合う活動を入れました。お互いに意見を出し合うことで、英文が練り上げられることを意図したものです。このような活動を繰り返すことで生徒は英語と向き合い、表現の楽しさを知ると同時に自分の課題を見つけると考えます。そのことが、英語を使って更に表現したいという意欲へとつながると考えています。

生徒に助言をするとき、基本的には生徒が表現したい内容を重視し、単語の綴りや文法のミスなどの指摘については意味がうまく伝わらないときのみに行いました。一度の表現活動で正確な文を求めるのは、グループ活動で文の練り上げをさせても難しいことです。しかし、このような活動の後に、自己評価と組み合わせ、自分の振り返りや気づきを積み上げていくことで、表現能力は身に付いていくと考えています。

さらに、日頃の授業の中でも自己表現活動を取り入れていくと効果があると考えています。例えば、本時の指導案のWarm-upでは、生徒が会話を続ける活動を設定しています。これは自己表現することに慣れさせる意図があります。

電子メール交換は、生徒に「異文化間コミュニケーション」の基本的な態度を身に付けさせる機会と考えました。メールの相手の生活習慣や文化が異なるので、生徒に相手の立場を考えながら手紙を書こうとする視点をもたせることができやすいからです。また、送信された内容を理解していくと、自分達とは違う生活や考えがあることを体験できます。そのことが、異文化理解の始まりになると考えました。

ネパールとつながろう
Let's send E-mail to Nepal!
Class()Name()

1 Do you have any questions about Nepal?

2 Your group topic.
We will ask you some questions about _____.

3 Memo(useful expressions you find in a dictionary)

4 Useful expressions
Do you~? Do your friends ~? Do your families~?
Are you~? Is your~? In Japan we~.
I think~. We have to~. We don't have to~.
We can~. For example, in Japan.

資 - 1 活動カード(個人)

イ 電子メール交換と情報モラルについて

電子メール交換は、インターネットが使える機種であれば、どのコンピュータでも可能です。生徒がコンピュータ操作に慣れていない場合は、操作の習熟に1時間ほど設定する必要があります。チーム・ティーチングなど複数で指導に当たると活動はスムーズになると思われれます。

本題材では生徒がインターネットを初めて使うため、最初に情報モラルについて考えさせる時間を設定しました。近い将来、生徒一人一人がインターネットを使用する機会が増えることを考えると、情報の自己責任について教えることは大切なことです。

最初の授業でインターネットを使い様々な国へアクセスした画面を見せると、生徒はたいへん興味をもちました。続いて、インターネットでは何が可能なのかを考えさせると、「様々な情報が即座に手に入る」とか、「インターネット上で買い物ができる」など、便利な部分が意見として出てきました。しかし、電話やファクシミリで困っていることと関連させてヒントを出すと、情報の中にも自分で考えて選択し処理しなければならないものがあることなどに気付き始めました。

インターネットで個人が自由に情報を発信したり、受信できるということは、その情報発信の責任は個人にあるということです。また、インターネットを使って得た情報の信憑性や正当性についても個人が考えて判断することが求められます。このような認識をもつように生徒に指導することが将来役立つと考えました。

ウ ネパールとの交流について

電子メール交換の相手を探すとき、生徒が英語を習い初めて2年間ほどの中学生であることを考えると、英語を母国語としている国との電子メール交換は難しいと考えました。同じアジアで、英語を学習しているネパールの学校は相手校として最適と考えました。また、英語は世界の共通語の一つであり、英語を使って世界の人と話ができることを生徒が体験できる良い機会と考えました。交流を進めていく上で、次のことを考慮しました。

(7) 明確な目的をもつこと

英語の授業の一環で、コミュニケーションへの意欲を高めるのが目的ですが、国際理解の視点を併せもつことも生徒に理解させました。特に、アジアで日本と同じように英語を学校で勉強している生徒との交流は、生徒が英語を通してネパールについて知る良い機会となり、また、日本をネパールに紹介する機会になると考えました。

(1) 指導者間の意志の疎通と共通認識の確立

交流の範囲の確認として授業で数回電子メールを交換し、相互に質問をし合うことを決めました。送信や受信の日程、コンピュータの設置状況、交流のテーマなどを、打ち合わせ、その後の交流を順調に進めるために緊密な連携を取ることを確認しました。

エ 生徒作品

次の(資 - 2)は生徒が自己紹介するために書いた文章です。年齢や趣味や将来の夢などが書いてあります。一人一人がこのように文章を書き送信しました。

Hi. My name isI am fifteen years old. My birthday is June. But I don't like June. Because it rains so much in June in Japan.

I have four members in my family. There are a father, a mother, and a brother.

My brother is seventeen. I like him.

My favorite subjects are English and P.E. But I can't like math. I'm a member of the music club. I like music very much. My hobby are dancing and singing a song. But I am not a good singer. I can play classical ballet. I like it very much. I want to be a classical ballet dancer in future.

Hello. My name is I am fifteen years old. I like sports. I am a member of the soccer team. Do you know the news that Japan soccer team will go to France to play in the Worldcup next year? I am very happy, because I like soccer. I want to play soccer every day. But I have to study hard now for the entrance examination next spring.

I have a dream. I want to be a carpenter, because I like Industrial Arts of all subjects. I want to build buildings and houses in future.

資 - 2 生徒作品

(10) まとめ

電子メール交換を英語の授業に取り入れることで、生徒が積極的に英語で表現しようとする意欲が高まったように思われます。その理由としては、英語を使ってメールを送信したり、受信したりすることで現実味をもったことが大きいと思います。また、メールは主体的な活動になりやすかった点も理由としてあげられます。本題材のように、「聞いてみたい」「伝えたい」ことがあると生徒が思うような活動を工夫すると、少々の表現の間違いがあっても積極的に英語を使うことが分かりました。

返信を受け取った時は、生徒は興味をもって内容を理解しようとして、辞書を片手に英文読解に取り組みました。理解できた喜びは自信に変わり、更なるコミュニケーションへの意欲となっていきました。それは、生徒が、「英語は人の気持ちや考えを伝える手段である」ことを実感できたからだと思います。また、ネパールの生徒の考えに触れ、自分たちとの共通点や相違点を知ることもできました。

さらに、このような電子メールの交換を、選択教科の中にも位置付けて、長期的に学習していく方向や学校間の交流にも発展させていくこともできると思われます。